

『飯田語録』を学び、新時代づくりに挑戦する

一般社団法人アーネスト育成財団 理事長 西河洋一

世界は、デジタルトランスフォーメーション（DX）に関わる変革の嵐の中にある。日本は『失われた30年』といわれ世界の経済成長と比較して遅れが顕著になった。日本人の勤勉さを取り戻す時期が来ている。

飯田GHD創業時の飯田一男会長が残した『飯田語録』の中から「“これでもか”の精神を持って!」「汗をかけ」の2つを紹介したい。

「語録10:『これでもか』精神を持って! 物事を決めると、予定通りにそのまま流れていくのが普通であるが、商売人は“もっと”という欲を持たなくてはならない。事業の予算組をしたら、こうしたら安くならないかとアイデアを出し、発注の時の更に負けてもらう交渉や、仕事が上手くいったら経費分少しでも負けてもらう様、事前をお願いしておく等、これでもかという程、細かく全てを交渉する。心の中で後に負けてもらおうと思っているだけでは駄目、駄目で元々と考え、必ず言葉で相手に伝え交渉する。仕事を終えてから交渉するのではなく、できるだけ仕事の始まる前に決まる前に決めていた方が良い。事業で想定外の費用が発生する事もあるが、それを吸収できる位の予算を事前に確保するためであり、『これでもか』という程一つ一つを丁寧に、もう「ぺんぺん草」も生えないという位に突き詰める精神を持って。

商売人のこころを伝えてくれるメッセージである。まさに“これでもか” “これでもか”と交渉する姿勢と心を伝えてくれる。

「語録11:汗をかけ 汗をかけというのは、何事も真剣に一所懸命やれということ。汗をかかずして儲けるのは運が良い時だけで実力にはならない。人一倍動き回れば、なんでもうまくいく。多くの報酬が欲しければ、他の人より多く働く事だが、自分だけ頑張っても仕方がない。我々の事業は、人を動かして『何ぼ』の仕事なので、多くの人を使い、多くの仕事をこなしていくことが汗をかくということだ。現場作業で汗をかくには、作業員の仕事で、社員の行うべき仕事ではない。社員にはこういう汗を掻かせないように。

「汗を掻くほど真剣に取り組めばうまくいく」は、仕事の基本である。報酬を多く貰いたければ、多く働けという。我々の事業は、人を動かして『何ぼ』の仕事だと教えてくれた。自分だけ汗かいても仕方がない。多くの人に汗を掻いてもらうことが重要であると教えられた。